

研修名 物・自然を使った遊び 「自然の環境での保育実践方法」
令和元年11月5日（金）10：00～12：30
フィールドワーク 京都御苑
講師 環境レイカーズ 代表 島川 武治 氏

1 フィールドワーク実践内容

1) しっかり目を使おう

① 緑をみてみよう

色々な緑。何色あるか→この世の色は500色（名前がついているもの）
300色は自然のもの。保育室は10～20色

② もみじをみてみよう

葉はいくつに分かれている？→「いろはもみじ」大体7つ
種がついている。くるくる回って落ちる。
風で飛ばされる。条件が揃ったら芽生える。
自然と人の違うところ・・・確率が低い（自然）
だから種がたくさんある。

2) におってみよう

① 葉っぱを拾ってみよう（クスの木）

においはそのままだとしないが、こするとにおう。
何のにおい？（表現する）・・・しょうが、れもん
このにおいの根源。生活によく使われている。→虫除け
（園庭に植えて虫除けにしている）

② マツの葉ですもうをしてみよう

連勝できるようなものを探す。
太いの。緑色の。→考えるだけで遊びが多様になる。
まつぼっくり・・・温かくなると開いてくる。
枯れかけると子孫を残そうと実をたくさんつける。

3) きいてみよう

- ① 牛乳パックにどんぐりを入れる。→1つ、2つ、3つ・・・音が変わった？
- ② まつぼっくり・どんぐり・葉っぱを入れてみる。→どんな音？
- ③ 鳥の声・・・意識するときこえる。

4) ふれてみよう

① ルーペ（×8）を使って

- ・手、目、頭皮など体の不思議を見してみる（2人組）
- ・不思議なものを探してみよう・・・せみの抜け殻、鳥の羽、葉っぱなど。

② 牛乳パックに入ったものを手の感覚だけで同じものを探してくる。

1回目・・・何となく触っている。

2回目・・・意識（予想しながら、確認しながら）触っている。

③ 葉っぱ、どんぐり、木切れを使ったじゃんけん遊び

- ・普段やっている遊びを取り入れる。
- ・あいこになったら一緒に手をつないで木にタッチしに行く。
→自然と相手をあわそうとする。

④ 桜の葉。色んな色を集めてみる。グループで順番に並べる。

緑→黄→オレンジ→赤→茶→黒・・・一年の移り変わり。

自然のものは朽ちていって最終、土に戻る。

2 感想

自然の中で身を委ねていると、それだけで心地よく解放感を味わった。その中で、「みる」「きく」「におう」「ふれる」「味わう」などの五感を使って自然を感じる体験をした。

今回は、最初にしっかりと、目を使う体験をし、いつもはぼんやりただ見ているだけの緑も、きっかけを作ってもらいしっかりと見ようとする自分がいて、自然に入るきっかけ作りをすること、感覚をとぎすますことが大切であることを教わった。出会ったものを使ってどんな遊びができるか。どういうことでくすぐるのか。又、投げかけていくのか。保育者の感性にかかっているように思う。

「みる」「きく」「におう」「ふれる」「味わう」など五感を使って自然を感じられるよう、日頃から身近な物事の変化に敏感であるよう意識して感性を磨いていきたい。そして、子どもと一緒に驚いたり、発見したりする楽しさを体験していける保育者でありたい。

（記録 修斉保育園 中田眞由美）